

ずいそう

初老!?! って

大石 重生



入社して一筋に（自立心無かったのかな～）36年。気が付いてみると定年まで残す所2年を切ったこの頃、思いをはせる言葉が浮かんできました。【初老】ええ…。生まれ故郷は福井。オート三輪が懐かしい田舎で育ち、大都会（その頃の私の気持ち）の名古屋に出て来て40年（名古屋も一筋でした）。早いですよね～。

【初老】辞書引用

1. 老境に入りかけの人。老化を自覚するようになる年頃
2. 40歳の異称

昔ならいざ知らず今の日本の平均寿命は80歳、今後は定年も65歳まで引き上げられようとの声もちらほらです。40歳は早いんですよね、年齢的には60～65歳でしょうかね。…まだ2～7年ある、まだまだ現役です。

毎日の生活を考えてみても、この40年でこんなに変わるとはその頃考えていたでしょうか。パソコン・携帯・ハイブリッドの車・子供たちのゲーム等々。技術の向上した物を生活へ取り入れるスピードが早い事を考えさせられます。

建設機械に関係する仕事に従事していますが、この分野では進化していない様に思います。

入社した頃は今の建設機械のほとんどを占める油圧式パワーショベル（P/S）は少なく、ブルドーザーが主流の時期で、今では何処でも見かけるミニショベルも殆どありません。小型工事は人力が多い時期でした。それからP/Sブームと成り、各社が競い合うように新機種・ラインアップを充実・機械の掘削能力はUPして工事作業能力の向上に貢献して来ました。その時期と合い重なりレンタルの普及が（当時は重機は購入して使用する事しかない）より工事への機械依存を強



くしてきたものです。

近年は建設機械にもハイブリッド仕様が導入されてCO₂削減に向けて（排ガス4次規制のエンジン搭載車の開発も進んでいます）取り組み始めました。

いずれにしても実作業工程は依然として変わらず建設生産プロセスの調査・設計・施工・監督・検査・維持管理の中で建設機械は施工の能力UPに貢献しているだけでした。

そんな中、平成20年7月31日、国土交通省【情報化施工推進戦略】／建設ICTの施策が発表されました。

これこそ建設機械が施工の中で測量分野も含めた作業効率UP、並びに安全作業に携わる事のできる技術だと考えます。私どもも中部地方整備局の建設ICTのモデル工事を含めた中で、機械・機器の販売・レンタルに参画させて頂いておりますが、現場の工事業者の声として特に熟練オペ様の声を今もはっきり覚えております。

【こんな機器を搭載した機械にもう少し若い時に乗れたなら、まだまだ良い仕事が早く出来、仕事にやりがいを見つけれられたのに（監督さんに指示されなくても、自分の機械の測量数値で作業出来る事らしいです）

この施工が広まれば、（コンピューター好きな）若い人がこの業界に入り易くなるんじゃないかな～】

この声を信じてこの施工の推進に今後とも誠意邁進していこうと所員と話をしております。

私の好きな言葉は平安時代に比叡山延暦寺の開祖／日本天台宗宗祖である最澄の書『山家学生式』の冒頭にある文句です。

【国宝とは何ものぞ 宝とは道心なり 道心ある人を名づけて国宝となす 故に古人言わく 径寸十枚はれ国宝に有らず 一隅を照らす 此れ即ち国宝なりと】

自分を信じて自分の場所で仕事に専念すれば良い仕事が出来自分も光り、又周りの人にも良い影響を与えますという事（東洋思想家安岡正篤の見解）。

社訓にも『誠実・意欲・技術』という言葉が有ります。

関係する皆さんと共に又、今後の人生を【一隅を照らす】人でありたいと思っております。